

■ 全体講評

今回の公開模試 AP 午後の問題は、一部に正答率の低い問題が見られたものの、受験者全体の出来栄を見る限り、難易度は例年並みか、やや取り組みやすかったように見受けられます。今回の模試を力試しの良い機会と位置付けて、成績が芳しくなかったとしても点数にとらわれることなく、できなかったところを復習して理解を深めましょう。

AP 午後試験は記述式の問題形式で、テクノロジー系、ストラテジ系、マネジメント系、組込みシステム系の問題で構成される全 11 問のうち、5 問を選択解答する形式です。問 1 のセキュリティ分野の問題は必須ですので、残りの 10 問から 4 問を選択することになります。まず、この選択をいかに的確に行うかが試験突破には重要です。試験では自分が選択した問題番号に○印を付けて採点者に示しますが、今回の模試では、自分が選択した問題に○を付け忘れている人、自分が解答した問題とは異なる箇所○を付けている人、問題番号の横の得点記入欄に○を付けている受験者がいました。このような解答要領違反は、解答の良し悪しの前に採点されないこともありますので、問題の指示に従って確実に問題を選択してください。また、試験の途中で選択を変更した場合も忘れずに反映させるように留意してください。

AP 午後試験では、問題の分野が多岐に亘ります。解答に際しては時間配分に注意が必要です。併せて、どの問題を選択するかは十分に対策を考えておかなければなりません。自分自身が普段従事している業務の特性や経験などから、アルゴリズムやデータベースを苦手としている人がいます。また、ストラテジ系やマネジメント系を得意とする人もいます。選択する問題の分野を広く考えておいて、試験本番に実際の問題を見てから選択問題を絞り込むことも戦略として有効です。実際、五つの問題に解答しておき、出来の良かった四つの問題を後で選択するような受験者も見受けられます。どの問題を選択するかが合否に大きく影響しますので、よく考えて問題選択を行うように意識しましょう。そして、選ぶべき問題の分野はしっかりと学習するようにしましょう。特に知識の有無が問われる問題では、前提となる十分な知識量が頭に入っていなければ合格水準の得点を得ることは難しくなるでしょう。

解答方法の全体的な注意点として、問題文や設問文

をよく読むことが挙げられます。解答のヒントや解答そのものが文中に書いてあることもありますし、解答表現の方向性を示していることもあり得ますので、これらの情報をしっかりと読み取り、設問意図を無視した独りよがりの解答をしないよう十分な注意が必要です。自らの業務経験に引っ張られて設問要求に応えていない、逆に応用情報技術者にそぐわない表現を用いないように注意することが大切です。

IT のバックグラウンドをもたない方の受験も増えており、ストラテジ系・マネジメント系の問題を選択する傾向が高まっています。これらの系統の問題では、問題文の文脈に沿って解答根拠を把握した上で解答しなければならぬ傾向が強くなり、解答表現には細心の注意が必要です。テクノロジー系の問題ではキーワードをしっかりと押さえることが重要です。なお、今回の解答の中には誤字や脱字がかなり多く見られました。各設問のコメントでも記していますが、キーワードとなる用語を、正しい漢字・カタカナ・英語のスペルで書けるように、知識のインプットとアウトプットの両方を意識して学習しましょう。

解答用紙への記入に当たっては、濃くはっきりとした字を心掛けましょう。乱雑に書きなぐったような字は採点者の印象が悪くなる可能性がありますし、正しい解答であっても誤字と認識され減点される可能性もあります。例として、記号や数字の「ウ」と「ク」と「ケ」や、「1」と「7」などで、判別しにくい答案が散見されました。また、ボールペンを用いた答案がありました。試験ではボールペンの使用は認められないため、普段から鉛筆やシャープペンシルでの記入に慣れておきましょう。

今回の試験結果を糧とし、粘り強く「絶対に合格する」という強い意志をもって、本試験までの残された日々を学習に充ててください。本番でご自身の力を最大限発揮されることを期待しております。

<午後>

問 1 Web サイトのセキュリティ対策

【採点基準】

〔設問 1〕

(3) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 3 点。「正当な実行者による処理である」など、裏返しの表現に当たる解答も正解としました。

〔設問 2〕

(1) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し3点。「早期に」という意図が読み取れない解答は原則として0点としました。

[設問3] (2)は「同一のユーザーID」、「異なるパスワードの利用」、「ログイン失敗が連続しない」など、解答例に沿った内容が含まれているものに対し3点。その他は解答例どおり。

【講評】

Webサイトのセキュリティに関し、アプリの脆弱性や認証機能の不備を突かれる不正アクセスのリスクが高まっています。これらの対策をIT技術者として適切に対処することが求められており、その脅威や対策に関する基本的な知識と理解についての設問でした。

設問1や設問2は全体的によくできていました。設問3(3)は完答が求められたため、正答率は低めでした。設問3(4)「リスクベース」も正答率は高くありませんでした。問1に関する内容は、セキュリティ分野の中でも出題可能性が高いため、間違えた方は特にしっかりと復習をしておいてください。

問2 事業戦略の策定

【採点基準】

[設問1]

(2) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し2点。既存顧客への新たなシステム販売が解答の主旨であるため、「新たな顧客の開拓」に関する解答は原則として0点としました。

[設問2]

(3) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し2点。「新規参入が遅れる」、「人材育成が困難」といった事業多角化に関連して、問題文中に示されている内容を指摘している解答は原則として正解としました。

(5), (6), (7) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し、各2点。

その他は原則として解答例どおり。

【講評】

全体的によくできていました。設問2(3)では正解の範囲を広げにしましたが、本試験では「人材育成」に焦点を当て、より精度の高い解答ができるように、今一度設問のロジックを追いかけおくようしてください。設問2(4)の「範囲の経済」は「規模の経済」とともに企業経営では日常的に用いられる概念であり、対比させつつ、セットで正確に理解しておきましょう。

設問2(7)は低い正答率でした。「ブランド」という語句が問題文に登場しないことがその一因と考えられますが、業界で認められてきたことと、買収によって会社の名前が消えてしまうことをつなげることができれば、「知名度」などの語句を用いて正解にたどり着くことができます。設問2(8)の「知的資産」のように無形の資産を競争力の源泉とする考え方は近年頻繁に耳にする言葉ですので、これを機会に理解を深めておいてください。

問3 トポロジカルソート

【採点基準】

[設問2] 空欄エ, [設問3] 空欄オは、「=」の記号を使った解答も原則として正解としました。

その他は解答例どおり。

【講評】

全体として出来は悪くなかった印象です。特に設問1, 設問2, 設問3ともよくできていました。ただし、{ }やコンマを省略した解答が散見されました。設問に対して正しい形式で解答する習慣をつけておきましょう。

設問4のうち、空欄ケの引数の値と、空欄コの配列の内容は正答率が低い状況でした。問3で扱ったトポロジカルソートの内容や、用いられる再帰呼出しの構造をしっかりと復習しておくようにしましょう。

問4 データ活用に関するプロジェクト

【採点基準】

[設問3] (3) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し3点。その他、ネットワーク負荷の高まりによる通信・伝送の遅延・不具合に類する記述がある解答は正解としました。

その他は解答例どおり。

【講評】

設問1は基本的な知識を問う計算問題であったことから、よくできていました。小数第一位を四捨五入し整数で答えるという指示も踏まえた上で正解できた解答が目につきました。

設問2(1)のSANは「ネットワークストレージ方式」という空欄の前の記述を頼りに知識を引っ張り出せるかがポイントです。空欄を埋める形式の問題の場合、文中にヒントが示されていることが多いので、該当箇所を丁寧に読み込んで学習知識と結び付けられるようにしておきましょう。

設問3の計算問題は正答率が低い結果となりました。ビットとバイトの変換を苦手とする受講生は少な

からずいますので、基本的な問題を繰り返し解いて慣れるようにしましょう。

問5 仮想デスクトップ環境の導入

【採点基準】

〔設問3〕(2) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し4点。ただし、IP-VPNが使用不可となる点と、(営業)業務が行えなくなる点のいずれかだけが解答されている場合は、1~2点の部分点を与えていることがあります。

その他は解答例どおり。

【講評】

システムをクラウド環境に移行する際のネットワークの変更ポイントや考慮点を中心とした出題でした。設問1の計算問題は比較的取り組みやすく、正解者は少なくありませんでした。

設問2のキャリア契約帯域の算出については、4問を全問正解できた人は少なかったです。

設問3(1)は比較的よくできており、ここを落とさずに解答できたかどうかポイントになったと思われる。

設問3(2)は4点と配点が高く、最低でも部分点を狙っていききたいところです。問題文中にあるヒントとなる記述をうまく抽出できたかどうか鍵でした。

問6 オンラインチケット販売システムのデータベース設計

【採点基準】

〔設問1〕a, b:「1対多」のように語句での解答は不正解としました。

〔設問3〕(1)え:「解除」も正解としました。

(2) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し2点。解答のFOR UPDATE句と同義の占有ロック、専有ロックなどを用いた解答も原則として正解としました。

その他は解答例どおり。

【講評】

問6はE-R図、SELECT文、同時実行制御をテーマとした出題でした。設問1や設問3は問題文中のヒントを見つけられたかがポイントになります。間違えた方は今一度、問題文中から解答の方向性を導き出す練習をしてみてください。

設問1では「1対多」のように語句で解答された答案が少なからずありました。本設問ではE-R図の完成が問われているため、答えは正しくとも不正解としました。このようにもったいないミスで失点すること

のないように、解答で求められているものを慎重に確認するよう習慣づけていきましょう。

設問2のfやgの記述の際、「空席状況」のように文中に登場しない語句での解答が散見されました。問題文中の言葉で解答できているかどうか、慎重に確認しましょう。

設問3(1)え:「解放」については、「解除」も正解としました。実際の本試験では「ロックの解放」という表現が使われますので、同じ表現で解答するように注意してください。「ロックの解除」という言い方も使われることがあるので「解除」も正解としました。

問7 デジタル聴診器の設計

【採点基準】

〔設問3〕(2) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し3点。「1フレーム分」、「聴診音データ」のいずれかの語句が記述されていない解答については原則として1~2点の減点としました。

(3) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し3点。「表示情報の送信」にまつわる記述がなされているものは原則として正解としました。

その他は解答例どおり。

【講評】

組込みシステムの開発に関する出題でした。設問1の計算は正答率がかなり低い結果となりました。しかし、問題文中から計算に必要な条件を把握できれば十分に解答可能であり、それらの条件を的確に抽出できるかが鍵でした。

設問2、設問3はおおむね良い出来でした。特に設問3(2)と(3)は各3点と配点も高く、設問1の正答率が低かったことから、この2問を正解できたかがポイントとなりました。不正解だった方は設問中から正解のキーワードを抽出できなかった原因をしっかりと分析してみてください。

問8 営業支援システムの開発

【採点基準】

〔設問2〕

解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し3点。

〔設問4〕

(1), (2) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し各4点。(1)については、「顧客情報を扱っていること」、もしくは「社外からのアクセス」のいずれかの言及がない場合は1~2点の減点としました。その他は解答例どおり。

【講評】

営業支援システムを題材とした出題でした。過去に本試験で登場したことはありませんが、基礎知識を活かして落ち着いて取り組めば解答可能な問題です。問題文をよく読んで出題の意図をくみ取れば得点源とできる出題でした。

設問 1 は解答群からの選択問題のため、たとえ DevOps に関する基礎知識がなかったとしても消去法で解答を絞り込める内容となっており、おおむねよくできていました。

設問 2 もよく解答できていました。しかし、「3 時間程度」と具体的な記述に終わってしまい、「早期に検出できる」点を説明できていない解答が散見されました。「スプリント計画の遅れをなくすこと」が解答の主旨であり、具体的な時間を示すよりは「早く」対応できることを示す必要があります。

設問 4 もおおむねよくできていました。ただし、(1)については「顧客情報を扱っている点」と、「社外からアクセスするシステムである点」の 2 点を解答に盛り込む必要がありますが、「社外からのアクセスに関する記述」が漏れている解答が散見されました。

問 9 チャットボットシステム導入プロジェクト

【採点基準】

〔設問 2〕

運用面、体制面とも、解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し各 2 点。

〔設問 3〕

(2)理由：解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 2 点。

〔設問 4〕

解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 4 点。

その他は解答例どおり。

【講評】

チャットボットシステムを題材としたスコープ管理、コスト管理、スケジュール管理の実践的な内容を問う出題でした。

設問 2 のうち、運用面では口頭で説明している点を解答としている答案が目立ちました。しかし、この文脈では口頭で事実を報告していることが問題点とまでは言えず、むしろ招集された場で初めて変更内容の資料を見ることなるために円滑に議論が進まない点をより重要視すべきです。体制面については、PM と発注元の利害関係について記述されていれば原則として正解にしています。

設問 3 は全体的によくできていました。また設問 4

については、「運用テストのタイミングや品質を高める」という目的について記述されていれば原則として正解としました。

問 10 システムの構成管理

【採点基準】

〔設問 2〕

解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 3 点。

〔設問 3〕

(2) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 4 点。

〔設問 4〕

(1) 理由：解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 3 点。

その他は解答例どおり。

【講評】

ソフトウェア開発会社とバックオフィス業務を担う会社の合併を題材とし、機器の管理が不十分で構成管理も十分に行われていない中で、合併後にハードウェアに障害が発生したケースから出題されていました。構成管理の重要性について問われています。

設問 1 では(ア)の代わりに(ウ)の解答が目立ちました。機器の製造年月日は構成管理上の重要性は低く、消去法の観点からも(ア)と(オ)に絞り込むことはそれほど難しくないと考えられます。

設問 2 は比較的良好にできていました。J 社の IP-VPN 装置の処理能力（レスポンスの低下や速度の遅延など）について言及されている解答は原則として正解としました。

設問 3(2)の記述解答もおおむねできていました。設問中のハードウェアの保守期限についての情報に着目できれば比較的容易に正解にたどり着けます。

設問 4(1)については、問題のあるシステムの特定はよくできており、その理由もおおむね妥当に解答されていました。しかし、「セキュリティソフトが導入されていない」という解答も散見されました。根本的な問題点である「保守期限」の観点から解答いただきたいところでした。

問 11 契約管理システムの監査

【採点基準】

〔設問 1〕

解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 2 点。

〔設問 2〕

解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対

し3点。「承認者標準設定ボタン」についての記述も正解とし、逆に「承認者一時変更ボタン」については不正解としました。

〔設問3〕

解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し2点。

〔設問5〕

解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し3点。

その他は解答例どおり。

【講評】

本試験で頻出の個別の情報システムに関する監査にならない、問11では製造業の契約管理システムを題材としました。

設問1は入金済や失注などのステータスに対する確認を要する観点からの解答が多く、よくできていました。設問3、設問5も同様に設問趣旨を踏まえての解答が目立ちました。一方、設問2では様々な解答が見られた中、規定に即して「承認者を事業部長に戻す」という旨の解答は多くなく、他の設問と比較して難しかったようです。事業部長の承認復帰日以降も被権限移譲者がそのまま承認してはならないルールであることから解答を導きたかったところです。

以上